

# CASBEE神戸ver.3

## 評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE神戸ver.3/CASBEE 建築（新築）2016年版 使用評価ソフト：CASBEE神戸ver.3/CASBEE-SD\_NC\_2016(3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	神戸市役所本庁舎2号館再整備事業	階数	地上29階、地下2階
建設地	神戸市中央区加納町6丁目5番1号	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	6,973 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2029年9月 予定	評価の実施日	2026年3月5日
敷地面積	9,513 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社竹中工務店 北村 仁司
建築面積	4,317 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	76,720 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 3.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>温暖化影響チャート

標準計算  
 ①参照値 100%  
 ②建築物の取組み 76%  
 ③上記+②以外の 76%  
 ④上記+ 76%

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 4.0

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.6

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.3

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 4.4

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.9

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 4.2

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

### 3 CASBEE神戸 の重要項目

バリアフリー計画	建築物の耐震性等	まちなみ・景観への配慮
<b>Q-2/1.1.3 バリアフリー計画</b>  4.6	<b>Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振</b>  5.0  <b>Q-2/2.4 信頼性</b>  4.4	<b>Q-3/2. まちなみ・景観への配慮</b>  5.0
<b>配慮の概要</b> 事務所(市役所含む)についてはバリアフリー新法の建築物移動等円滑化誘導基準を満たし、認定を取得している	<b>配慮の概要</b> 本建物は免震構造であり、構造計算においては時刻歴応答解析にて極めて稀な地震動に対して層間変形角1/200として設計を行ない、基準の1.5倍以上の耐震性能を有している	<b>配慮の概要</b> 建物高さや壁面位置・色彩など周辺のまちなみや風景にバランスよく調和させるとともに、敷地内舗装については、神戸、旧居留地周辺の東遊園地からの連続性を考慮し、周辺舗装と同じ外構床材を採用した
<b>その他の配慮事項</b> 特に無し		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい

**CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新)**  
**神戸市役所本庁舎2号館再整備事業**

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築  
 ■評価ソフト: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD\_

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>4.0</b>
<b>Q1 室内環境</b>							0.40	-	-	<b>3.6</b>
<b>1 音環境</b>						<b>3.7</b>	0.15	<b>4.0</b>	1.00	<b>3.7</b>
1.1 室内騒音レベル		【ホ(宿)】室内騒音レベル35dB				<b>3.0</b>	0.40	<b>5.0</b>	0.40	
1.2 遮音						<b>4.4</b>	0.40	<b>3.6</b>	0.40	
1 開口部遮音性能		T-2				5.0	0.71	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能						3.0	0.29	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音		【事】床と天井の二面に吸音材を用いている				<b>3.8</b>	0.20	<b>3.0</b>	0.20	
<b>2 温熱環境</b>						<b>3.1</b>	0.35	<b>3.2</b>	1.00	<b>3.1</b>
2.1 室温制御						<b>3.3</b>	0.50	<b>3.4</b>	0.50	
1 室温						3.0	0.38	3.0	0.57	
2 外皮性能		【事】【ホ】外皮性能は室内への熱の侵入に対して配慮を行なっている				4.0	0.25	4.0	0.43	
3 ゾーン別制御性		【ホ】大まかな空調ゾーニングかつ、ゾーン別に冷房・暖房の選択可能				3.2	0.38	-	-	
2.2 湿度制御						<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	0.20	
2.3 空調方式						3.0	0.30	3.0	0.30	
<b>3 光・視環境</b>						<b>3.6</b>	0.25	<b>4.1</b>	1.00	<b>3.7</b>
3.1 昼光利用						<b>2.7</b>	0.30	<b>4.2</b>	0.30	
1 昼光率		【ホ(共)】昼光率:8.36%【ホ(宿)】昼光率:2.89%				<b>2.6</b>	0.60	<b>5.0</b>	0.60	
2 方位別開口						-	-	-	-	
3 昼光利用設備						3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策						<b>3.8</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.30	
1 昼光制御		【事】ブラインドと庇を組み合わせて昼光を制御している				3.8	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度		【事】照度500lx以上【ホ(宿)】照度100lx以上・複数機器使い分け可				<b>3.8</b>	0.15	<b>5.0</b>	0.15	
3.4 照明制御		【事】1作業単位で制御可【ホ(宿)】室内複数部分に対し制御可				<b>4.6</b>	0.25	<b>5.0</b>	0.25	
<b>4 空気質環境</b>						<b>4.0</b>	0.25	<b>3.8</b>	1.00	<b>3.9</b>
4.1 発生源対策						<b>4.0</b>	0.50	<b>4.0</b>	0.63	
1 化学汚染物質		建基法を満たし規制対象外建材をほぼ全面的採用している				4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気						<b>3.3</b>	0.30	<b>3.6</b>	0.38	
1 換気量		【事・ホ(共)】30m <sup>3</sup> /h人、【ホ(宿)】75m <sup>3</sup> /h人				4.0	0.38	5.0	0.33	
2 自然換気性能						3.0	0.24	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.38	3.0	0.33	
4.3 運用管理						<b>5.0</b>	0.20	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視		CO <sub>2</sub> 監視が中央で常時行なえるシステムとなっている				5.0	0.36	-	-	
2 喫煙の制御		喫煙室を設け、非喫煙者が煙に曝されないよう対策を行なっている				5.0	0.64	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>						-	0.30	-	-	<b>4.3</b>
<b>1 機能性</b>						<b>4.4</b>	0.40	<b>5.0</b>	1.00	<b>4.4</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>4.3</b>	0.40	<b>5.0</b>	0.60	
1 広さ・収納性		【ホ(宿)】ツインルーム:50m <sup>2</sup>				3.0	0.24	5.0	0.50	
2 高度情報通信設備対応		【事】OAフロアかつOA機器用コンセント容量確保【ホ】Gbitクラス通信確保				5.0	0.24	5.0	0.50	
3 バリアフリー計画		【事】バリアフリー新法の建築物移動等円滑化誘導基準を満たしている				4.6	0.52	-	-	
1.2 心理性・快適性						<b>4.5</b>	0.30	<b>5.0</b>	0.40	
1 広さ感・景観		【事】天井高2.7m以上かつ窓設置、【ホ】天井高2.7m以上				4.0	0.24	5.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		リフレッシュスペースが執務スペースに対して1%以上				4.0	0.24	-	-	
3 内装計画		インテリアバスを作成するなど内装計画の事前検討をしている				5.0	0.52	5.0	0.50	
1.3 維持管理						<b>4.5</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		内壁・床面は防汚性の高い建材を採用するなど配慮している				5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		フロア毎に清掃用流しを設置するなど配慮している				4.0	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>4.4</b>	0.30	-	-	<b>4.4</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>5.0</b>	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		時刻歴応答解析により基準法の2倍以上の耐震性を確認				5.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		揺れを抑える装置を導入している(中間免震構造)				5.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>3.6</b>	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		高湿系排気ダクトなどは全てガルバリウム鋼板を採用している				5.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用				5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						<b>4.4</b>	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		地震時に全体機能の停止を引き起こさないように吊配管としている				4.6	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		停電時に飲料用等に使えるよう受水槽に水道の蛇口を設置				4.8	0.20	-	-	
3 電気設備		特高受電方式、かつ非常用発電・防潮板を設置し対策している				4.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		耐震クラスA相当				4.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		ネットワーク機器用に無停電装置が設置されている				5.0	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>4.3</b>	0.30	<b>3.0</b>	1.00	<b>4.1</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.6</b>	0.22	<b>3.0</b>	0.50	
1	階高のゆとり	【事】階高4.2m	5.0	0.60	3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	【事】壁長さ比率:0.198	4.0	0.40	3.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>4.0</b>	0.22	<b>3.0</b>	0.50	
【事】4500N/m以上							
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>4.3</b>	0.57		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性	【事】ユニット配管	4.8	0.20		-	
3	電気配線の更新性	ケーブルラックにより、構造材・仕上げ材を傷めず配線の修繕・更新可能	5.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性	ケーブルラックにより、構造材・仕上げ材を傷めず配線の修繕・更新可能	5.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性	設備更新ルートが確保され、かつ更新・修繕時に建物機能を維持でき	5.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保	バックアップ設備のためのスペースを確保している	4.0	0.20		-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	<b>4.4</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>4.0</b>	0.30		-	<b>4.0</b>
敷地内に多くの植栽を設けている							
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>5.0</b>	0.40		-	<b>5.0</b>
植栽により良好な景観を形成している							
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>4.0</b>	0.30		-	<b>4.0</b>
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>			<b>5.0</b>	0.50		-	
ワークプレイス検討を実施し利用者の意見を取り入れている							
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>			<b>3.0</b>	0.50		-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.9</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>4.0</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			<b>4.8</b>	0.20		-	<b>4.8</b>
BPI=0.82							
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10		-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>			<b>4.2</b>	0.50		-	<b>4.2</b>
BEI=0.69							
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.5</b>	0.20		-	<b>3.5</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.5</b>	1.00		-	
4.1	モニタリング	エネルギー消費量を把握でき、消費特性の傾向把握・分析を行なえる	4.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-	
集合住宅の評価							
4.1	モニタリング						
4.2	運用管理体制						
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>4.2</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.3</b>	0.20		-	<b>3.3</b>
<b>1.1 節水</b>			<b>3.8</b>	0.40		-	
【事】節水コマなどに加えて省水型機器を用いている							
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.0</b>	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>4.5</b>	0.60		-	<b>4.5</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>			5.0	0.10		-	
BCP材を採用している							
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			5.0	0.20		-	
既存建築躯体を継続使用している							
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>			5.0	0.20		-	
高炉セメント							
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>			5.0	0.20		-	
ビニル床材(床仕上げ材)、化粧岩綿吸音板(天井仕上げ材)、断熱材							
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			3.0	0.10		-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>			<b>3.8</b>	0.20		-	
【事】OAフロア							
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>4.0</b>	0.20		-	<b>4.0</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			<b>5.0</b>	0.30		-	
PRTR法の対象物質が含有しない建材を使用している							
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>3.6</b>	0.70		-	
1	消火剤	不活性(窒素)ガス消火剤を使用している	4.0	0.33		-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0かつGWPが50未満の断熱材を使用している	4.0	0.33		-	
3	冷媒		3.0	0.33		-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>3.6</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>			<b>3.9</b>	0.33		-	<b>3.9</b>
LCCO2排出率を抑制している							
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.5</b>	0.33		-	<b>3.5</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			<b>4.0</b>	0.25		-	
Noxにおいて現行の排出基準より大幅に抑えられている							
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>3.0</b>	0.50		-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>4.0</b>	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制	適切な量の駐輪・駐車スペースを確保している	5.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制	ゴミの多種分別回収が可能なストックスペースを計画している	5.0	0.25		-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.5</b>	0.33		-	<b>3.5</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	
1	騒音		3.0	1.00		-	
2	振動		-	-		-	
3	悪臭		-	-		-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>			<b>3.7</b>	0.40		-	
1	風害の抑制	風環境評価指標にて、一部に立地ランクより上のランクがある	4.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制		-	-		-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30		-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>4.4</b>	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインチェックリストの過半を満たしている	5.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	